

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「笑顔と寄り添い」というホームの理念には、ご利用者が、地域の方々と触れ合いながら過ごされるようにという思いが込められており、法人の理念には良い介護サービスを地域の方々が受けられるようにと地域の方々へ貢献したいという思いが込められている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	1人1人のペースに合わせ、本人・家族の意向を考慮し、本人の思いに添えるように、日々努力しグループホーム彩の理念を常に指針に目を向けている		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域活動に参加し、お手玉大会・子供会行事など参加させて頂いている。地域住民の顔馴染みの方と出逢える機会も多く、うれしく会話されたり、気軽に手を取られる姿もありました		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩の途中で立ち話や、近所の方と犬の散歩で仲良くなったり、犬にエサをあげられる姿もある。また子供たちも遊びに来てくれたり、野菜・お花・お米など頂く事もある		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎年、敬老会や地域の活動に参加させて頂いている。地域の方と交流し、楽しみを持って下さっている。地域の方の差し入れも多く、漬物を樽ごと頂いたり、新鮮野菜など、皆さんに食べさせてほしいと温かいお付き合いをさせて頂いている		
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	災害時や避難勧告時には、高齢者・独居の方の避難や食事の提供など出来る限りお手伝いさせて頂くようにお話しをすすめている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ケアを振り返り、改善につとめている。又、評価結果を周知し、今後の改善策に取り組んでいる		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの取り組み状況から、困難事例・試食会における批評など、多方面より実施し、運営推進会議のもつ犠牲が活かされている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	会議だけではない、良い結果が得られている。市の担当者の変更により、情報交換を行ったばかりであるし、これからも一緒により良いサービスを提供していきたいと思っている		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	市職員によりスタッフと家族へ説明の機会を持っている。必要時には、管理者がいつでも説明できるように書類を用意している		
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についてスタッフで話し合いを持ち、結果、運営推進会議で発表する事ができました。虐待防止について勉強し、常に全員で注意を払っている		
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を一つ一つ読み、要点を押さえ説明させて頂き、その場で出来るだけ、理解して頂けるよう努めている。又、再度自宅に持ち帰って頂き、しっかり把握、納得した上で契約している。不安や疑問点があれば、わかり易く説明する努力をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にポスターを貼付し、苦情相談窓口を作っている。又、家族からの苦情をいつも宝とし、言いやすい雰囲気をつくるように努力している(意見箱設置)		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会の頻度が多いので、その時その時、管理者・スタッフが状況を説明している。新聞も送付させて頂いている。電話の場合も多い。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約前に必ず、本人家族の問題点・不安を兼ね、説明・見学により理解を図り、本契約時にも必ず書面により口頭で説明を行っている		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	悩みや不安などスタッフの顔色には気をつけている。スタッフの意見も宝と思っている。現場の意見を大切に改善できるように努力している。個別に食事に行く機会を作っている		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	柔軟な対応ができるように必要時間に確保できる勤務調整ができています。又、心よくスタッフが応じて頂けるので助かっています		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	何よりも利用者さんにとって、顔なじみのスタッフがどれだけ安心するのかがよくわかる。スタッフが2年以上離職がないことを有り難く思い感謝している。また、スタッフが働きやすい、やりがいのある職場として、いつも向上心が持てるように配慮する		
	5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集も本人との同意が得られれば採用している。能力を充分發揮して安心して職務について頂けるように多方面よりサポートしている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権の尊重・知識の向上を目指し、ミーティングを活用し伝えている		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける事の大切さを周知させ、内・外部研修を積極的に受けるように進め、受けやすいようにシフト調整し、研修に応じ費用を負担している		
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者のとの交流を多く持ち、勉強会に参加し、サービスの向上につとめ情報をもらっている。お花見・バーベキューなど合同で実施している		
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	食事会など楽しい場もっている。個別にも対応している。疲労感など、整体が好きな方にはマッサージで体を癒してもらっている		
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	本人の能力は違っていても、その人なりの努力・実績は評価している。また応援している		
	II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	良いサービスが出来るように、しっかり情報をとり、受け止める努力をしている		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の求めていることをしっかり把握し、より良いサービスが出来るように、ご家族に理解して頂き協力を得ている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当GHでの対応・支援しているサービスに説明をさせて頂き、他のサービスも紹介させて頂いている		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	先に荷物を入れて頂くなど配慮し、常にかかわりがもてるように、ご家族のご協力を得ながら、安心してサービスが受けられるように工夫している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に対し、スタッフの笑顔寄り添いの大切さから愛情が伝わり、信頼関係を築く事ができている		
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には家族とよくコンタクトをもち、状況不安の改善に努めている。また、いつも家族の支援・ご協力の上で成り立っている事をお伝えしている		
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族も面会が多い事や気持ちが安定する事で、良い関係が築けているし、又、不仲だった兄弟も入所を機会に良い関係となられているケースもあった。		
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望もくみとり、外出に連れ出したり、食事を共にするなど支援している		
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日の体操・レクリエーションを通じ、仲良く応援する機会を大切にし、共に仲間意識を高めている。夕食後の談話も話がはずんでいる		
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	終了した後も、お見舞いや家族との連絡も多く、家族とは付き合いは続いている。3年以上たった方からも敬老の日などは、お心遣いが届いてくる		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いをくみ、ケアプランで見直しをしている。困難時には、何回もスタッフ・家族との相談・改善をしていき、本人にとって一番いい方法をくみとり随時検討している		
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの見直し、情報周知、毎月支援経過を見直ししていき、スタッフ全員が把握できるようにしている		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々、心身の状況が変化していく中、情報を共有し、本人の能力を把握し、いつも家族と話し合いをもっている		
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	常に情報変化、課題として、スタッフの意見や方針を家族と話あっていながら、本人・家族の思いを受け止め、介護計画を作成している		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、ケアの見直し、支援経過をたどりながら、その都度、家族と話し合い困難時も多方面より試行しながら計画を作成させて頂いている		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を見落とさず、個別記録にて情報を共有モニタリングにし、スタッフ会議にて、いつもリスクを考慮し必ずスタッフ家族と検討し、プラン変更している		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	夕食に晩酌をしたり、家族の状況も把握し、夕食の支援もさせて頂くなど支援させて頂いている。入浴時も希望に応じて食事をもって行ったり食介に行っているなど柔軟に支援できている		
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	教育機関より、ボランティア支援として、実習の受け入れをしたり、中学生の実習を受け入れをしている		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人・家族の意向を受け入れ、希望をふまえ、サービス情報をさせて頂いている		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターより、権利擁護について詳しく説明頂いている。また、電話での対応もお願いしている		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	安心して、24時間365日、支援して頂いている。緊急時も即対応して下さり、終末期支援も可能になりました。主治医以外でも希望にて受診して頂いている		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医との協力関係も築く事ができ、相談治療、適切な指導をしていただいている		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者も看護職であるが、協力医療機関の看護師が即対応し、往診治療をサポートして頂いている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族だけでなく、管理者がDrとの情報交換や相談をしており、本人が安心して治療ができ早く帰れるようにと励みになっている		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医との連携はとれており、終末期支援も可能となりました。また、病院・施設をの方針が決定し、同意書を交わしている。早期に家族との話し合いもDrより説明して下さっている		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	スタッフ会議において、本人の状況・終末期支援において、スタッフの意思の確認を行い主治医とも相談していきながら、家族とのコンタクトも密にとっている。急変時の対応についても家族に説明納得していただき、治療方針に基づき支援させて頂いている		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	スタッフ間の十分な話し合いのもとに、家族に納得できるように説明しているがあくまでも家族の希望を考慮している為に、最終は家族の判断に任せている		
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常にプライバシーの保持・個別情報の取扱いに気を配っている。一人一人を尊重し、言葉かけ、対応には再三ミーティングで話し合いをもっている。また、情報の漏洩防止に努めている		
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の意思決定が出来るように声かけしたり選択できるように対応している。また、理解力が低下しても話を合わせ本人の意志をくみとっている		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	高齢であり、無理に誘導はせず、一人一人のペースに合わせ業務を変更している。本人の時間を有効に使い希望のままに支援している		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎週2回保清の日をつくり、爪・耳だけでなくマニキュア・パーマ染色・顔そり・マッサージを行っている。外出時はお化粧品や洋服を選択したり本人のおしゃれが出来るように支援させて頂いている		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	いつも食事は楽しみにしている。メニューも読んで頂いているが、月に1~2回はパン食やお弁当を配送して頂くなど喜びは増している。また、調理・おやつも一緒に作っている		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	毎晩酌や本人が好むものを食べられている。本人の希望に応じ、食べたものを聴取し、買い物時に購入し、食べる事の楽しみは継続している		
58	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄パターンを記録に残し、尿意のわからない方は時間おきに誘導を試みている。また、自力にて排泄が習慣できるように主治医に相談してから支援している		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴拒否は無理にせず明日入れるなど、配慮している。また、ゆっくり時間をかけて入浴する事ができるように支援している。シャワー浴・清拭や陰部洗浄時、足浴等も利用し、爽快感を味わって頂いている。また、入浴剤や葛根湯・みかん湯なども喜んでいただいている		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の希望に応じて、気持ちよく入眠していただくように支援している		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	頑張りカードを毎月作成し、一人一人の目標達成にて、生き生き生活出来ている。外出や楽しみごとを増やし、本人の興味を引き出し支援できるようにしている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口に関しては、スタッフ管理であるが、本人の希望にてお金の所持をしてもらっている		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望で外出する時もあるが、体調・天候をみて散歩に行かれたり家族との外出も多い。戸外での昼食・バーベキューなども屋外での一味違った喜びとなっている		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	全員、個別対応の時もあるが、家も同伴足湯・お花見・温泉(家族湯)・バイキング・芋掘りなど協力を頂きながら支援している		
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中御見舞状や年賀状など代筆をさせて頂いたり、本人の希望時には、電話で会話できるようにしている。また、契約終了されても電話がかかってきたり、お手紙が来たりと代読しているが喜ばれている		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問客には、家族同様、管理者、スタッフと気軽に声をかけている。家族以外でも来客と仲良くなり、いつでも気軽に立ち寄って頂けるように馴染みの関係が築けている		
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的に関しては、十分にスタッフとケアについて話し合う事ができ、取り組みを強化する事ができている。ベット柵においても危険性を充分家族に理解して頂き、了解して頂いた上で実践している		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は全開オープンで窓も開放している。玄関の戸じまりもご利用者の役割となっている。鍵をかけないが危険性が大きい時は鈴を利用し、即対応できるように家族にも納得頂いている		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人の希望、思いのままに行動されるが、常にR(リーダー)人数の把握をしており、家族了解の上、名札をつけておる方もいるが、安全に配慮している		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人一人の状況を把握し、リスクを常に考慮し、危険物は除く様になっている。危険物も多いが1日3回、物品チェックにて確認している		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一つ一つのリスクを指導し、知識を向上させ、家族にも必ずリスクを伝えている。報告・連絡・相談を徹底し、常に安全対策に力を入れている。		
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命救急の講義を全員が受けている。応急手当・対応についてもマニュアルにて勉強し、必ず管理者、看護師の指示・観察力経過と緊急時の対応に備えている		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練も定期的に行い実施している。日常より地域の方にも協力して頂けるようお願いしている。近隣の病院とも協力依頼をしている		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	本人の状況をスタッフ全員が把握しており、一人一人に対するリスクも考慮している。早期より起こり得るリスクを家族に説明しており、家族と協力し対応を考えプランにも繁栄させている。また密に家族と連絡をとり、小さな事でも報告し、ありのままをお伝えしている		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、VSチェック血中酸素濃度測定、水分摂取量、排泄状況の把握を常に行い看護師による健康管理、主治医への報告指示、緊急時の対応、異常時の早期発見は体制が整っている		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服管理、服薬までの3回確認を基本に薬効・副作用は理解できており、処方変更時も変化の対応、副作用も把握できている		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便困難時も原因を探り工夫している。また水分の摂取量を毎日把握し、食べ物など工夫している		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人一人のペースに合わせ、食後口腔ケアを行っている。お茶多く摂取させ、緑茶の含嗽時も1年中使用している。特に就寝前は力を入れ、義歯ポリドントによる除菌を1日/W歯科医と衛生士によりチェック指導を受けている。		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人ペースにより摂取量は違っても、ほとんどの方が完食されている。一日1000~1500mlを目標に水分摂取量を毎日計測把握し、入れる量に対して、排泄量も確認している。また献立によりCal計算している。血液検査のデータにより、助言も受けている		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ミーティングにより、感染症に対する対応を勉強し厚労省による通達も周知できるようにしている。対応マニュアルも周知している		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、調理器具はハイターにて除菌し、消毒チェックを記載し、管理者が管理している		
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は全開にしており、愛犬も可愛がられている。玄関先も入居者の方々がお花を植えられ、お花・野菜と楽しみをもたれている		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは明るく広く、天井が高く開放感が出ている。廊下に絵画やパズル、創作物とご利用者様の作品を展示している。夏場はすだれを使用し、光を防ぎ、壁面には四季の造作物を飾っている		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの共用空間を利用したり、玄関のソファに座り、風を当たりながら、ゆっくり過ごせるように配慮している		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前より、使い慣れた馴染みのものを持ってきて頂く事をお願いしている。一人一人の意見や安心して過ごして頂けるように、仏壇・遺影をもってこられている方もおられ、お供え物(おぐなど)も毎日、供えられ安心して過ごせるよう配慮している。また、ご家族も宿泊できるように広く造られている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計を設置し、外気温と室温、空調器具の温度を設定し、外気との差に気をつけている(温度差5℃)		
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	下肢筋低下や、転倒・転落を防ぐ為に、建物・ペット・扉などに、家族了解の上、鈴をつけさせて頂いている		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	可能な限り、意欲を引き出し、得意な事には積極的に声掛けし、自信につなげるようにしている		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関周囲で日向ぼっこをしたり、歌を歌ったり、犬のエサをあげるなど、楽しみをつくっている		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 》①ほぼ全ての利用者の 《 ○ 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 ○ 》①ほぼ全ての家族と 《 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 ○ 》②数日に1回程度 《 》③たまに 《 》④ほとんどない
99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 ○ 》①大いに増えている 《 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くない
100	○職員は、生き生きと働いている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての家族等が 《 ○ 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない